

期末考査が終わり、平成31年でスタートした令和元年が間もなく終わります。今年1年を振り返り、皆さんの生活はいかがでしたか？

私は、但馬の学校からこちらに来させていただきましたので、生活に大きな変化がありました。生徒数も188人から667人と規模も変わり、学科も3学科。家庭クラブの全国大会や生徒指導協議会の事務局など学校を超えた仕事も多く、なかなか大変でしたが、先生方のご協力、PTAをはじめとする保護者の皆様、地域の方々のご支援そして何よりも元気で明るく生活している生徒の皆さんのおかげで着任1年目の良いスタートが切れたと思っています。ありがとうございました。年末年始含め、来年度への準備を進めながら社高校発展に頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

さて、左の写真は来年の全国総合文化祭への出展が決まった2年臼井美咲さんの作品です。「夏の思い出」という作品名ですが、先ごろ行われた兵庫県総合文化祭写真部門で

入選し、上位の3年生が抜けた後の繰上りでの出場ということです。こういったチャンスをいただけることに感謝し、経験を積み重ねていくことが大切になってきます。出展おめでとうございます。

さて、右の写真は10日に行われたSNSに関する講演会の模様です。NIT情報技術推進ネットワーク株式会社の篠原嘉一さんを講師に迎え、「動画投稿やネットゲームに潜む危険」というテーマで、講演をいただきました。大学企業は投稿内容をチェックしている、見られて困る内容は絶対投稿しない、顔を見ることがないネット相手を信用しない等基本的なお話に加え、具体的な個人情報



情報が漏れない設定の仕方を実際の画面を見ながら説明していただき、非常にわかりやすかったので、生徒たちの反応もよく、講演をしっかりと聞けたと思います。最近では企業の一次面接をAIで行う会社も出てきており、使用するアプリをパソコンやスマホに入れさせ、顔写真等を登録することによって、過去の投稿をすべて検索し、その結果で絞り込むという話も伺いました。過去に批判的な、マイナスな投稿があればこの時点で合格できないという事だそうです。過去の投稿は消えない、問題画像が人生を変えるとまで言われているそうです。最後には、ネット投稿で誹謗中傷は投稿者に返ってくる、ネット上の攻撃は無視すること、そしてスマホを持っていても使わない我慢、そしてコミュニケーション能力を付けること等重大な話をされて講演を終わりました。大阪府での小中学校でのスマホ持ち込みを認めるのはこの我慢を教えるためといわれていました。難しい判断だと思いますが、ネットゲームの弊害はLEDのブルーライトによる脳が刺激を受けることで障害が出るということが証明されていることと合わせて使用時間を限定することは今後重要になってくると思います。講師の先生はとても忙しい方で、なかなか話を聞くことができない方です。今回は貴重な講演を聞くことができ大変充実した時間を持つことができました。篠原様ありがとうございました。



12月11日には株式会社ユキヤマの岡本圭司さんが東京オリンピックパラリンピックムーブメント事業の講師として来校されました。私の御影高校時代の教え子でもある岡本さんは、20歳から始めたスノーボードで世界を席卷し、撮影中の事故で脊髄損傷という大ケガを克服しパラリンピックを目指そうとしている方です。

スノーボードに賭ける思いやケガをする前の取組や、ケガをした後のリハビリからの復帰などとても深い内容で話をいただきました。「人間には物事に気づける人間と物事に気づけない人間の2通りがあって、気づける人間になってほしい。自分はケガをしたことで多くのことを学んだ。死ぬときに後悔したくないので自分に嘘はつかない。」と私たちにも響く言葉を投げかけてくれました。大ケガで手術後に左足は動くようになるだろうが、右足は難しく一生車椅子での生活を余儀なくされ、絶望の淵に立たされた。そんな時、教え子が「俺が世界大会で優勝してきたら圭司君の足も動く」と言ってくれて、その言葉通り本当に2度も優勝してきた。そのことがきっかけで目覚めることができ、苦しいリハビリに向き合い、必死に頑張ったこと、ケガしてから6か月が勝負ということのできることをすべてやろうと心に決めて取り組んだことなど実体験の話はとても重く、生徒たちの心にも響いた

のではないのでしょうか。私も、ケガから1か月半くらいの丁度絶望の淵にある時に一度お見舞いに行ったのですが、体も動かさず、左足が少し動く程度でベッドに寝た状態だったので、今後どんな支援ができるのかと思ったことを思い出しました。その時から比べると、想像もできない回復ぶり、右足は太くならず細いままでしたが、しっかりと足取りでした。ケガから1年半たたないうちに滑り始めたということですからおそらく並大抵のリハビリではなかったかと思います。同時に彼を取り囲む仲間たちの励ましなど、人間関係の良さや面倒見の良さは本当につながるの大切さを感じることができました。こういった言い方は失礼ですが、高校時代私によく怒られていた彼とは全くの別人のようで、頼もしささえ感じさせてくれました。例え方も絶妙でした。「僕の話はどう聞か、必要などろだけをとって聞いてほしい。川にお礼が流れてきたらみんな一万円を拾いに行くだろう、千円札だけを拾う人はいない、同じことで僕の話が川のように流れてきたら一万円に当たる部分だけを拾ってもらえればよい」という例えでした。最後には「自分は多くの人に支えられてきた。他人を幸せにすることを考えることでそのことに応えていきたい。身近な家族を幸せにすることや仲間を幸せにすることで多くの人を幸せにできている。みんなも

家族や仲間を幸せにすることを考えて行動してほしい」と結んでくれました。生徒たちも本当に真剣に話を聞いてくれており、良かったと思います。その後昼食も一緒にとりましたが、思い出話に花が咲き、幸せな時間を過ごすことができました。岡本さんありがとうございました。競技に、会社経営に、スノーボードの普及に頑張ってください。そして、2022年北京パラリンピック日本代表として出場されることを生徒たちとともに祈っております。(右は岡本さんのサイン)



そして13日から東京で行われる「地方創生☆政策アイデアコンテスト2019」に近畿代表として参加が決まった生活科学科の5名の皆さんが校長室にあいさつに来てくれました。自分たちが作り上げてきたものを発表するわけですから、自信を持って堂々とやってきたことを伝えてほしいと思っています。良い経験をさせていただけのことに感謝しつつ持てる力を発揮してください。



12日には1年生が職種別懇談会を実施。幼稚園教諭、銀行、社会福祉士、看護師、カウンセラー、歯科衛生士、栄養士、技術研究職、小学校教諭、公務員、保健師の方々に来ていただき、話を伺いました。生徒たちの質問にも丁寧に答えていただき、職業に関するイメージも膨らんだと思います。

お忙しい中、来ていただき本当にありがとうございました。(写真左:歯科衛生士さん、右:看護師さん)



13日は2年生が進路ガイダンスを実施。推薦入試、センター試験に関する一般的な話や各大学及び各専門学校、大学校の話、就職に関する話を各部屋に分かれて聞きました。生徒たちは希望する3か所を選択し、30分間隔で移動しながら説明を聞いたので、進路選択が間近に迫ってきたこと

実感できたのではないのでしょうか。来ていただいた関係者の数が多かったため、体育館も使用しての実施とさせていただきますが、お忙しいところ本校生徒のために来ていただき本当にありがとうございました。

12月も半ばになり、寒さが染みるようになってきました。暗くなるのも随分早くなり、自転車通学の生徒は特に安全に気を付けて通学してください。また、保護者の方に車で送迎していただいている皆さん、車を止める場所の配慮をお願いします。事故等あってはいけませんのでご協力をお願いします。

私たち教員も不祥事のニュースを聞いたたびに気を引き締めなくてはと思うところですが、不祥事のあるなしにかかわらず緊張感をもって教育活動にあたるようにしていきますので、お気づきの点があればご連絡いただければと思います。よろしくお願いします。